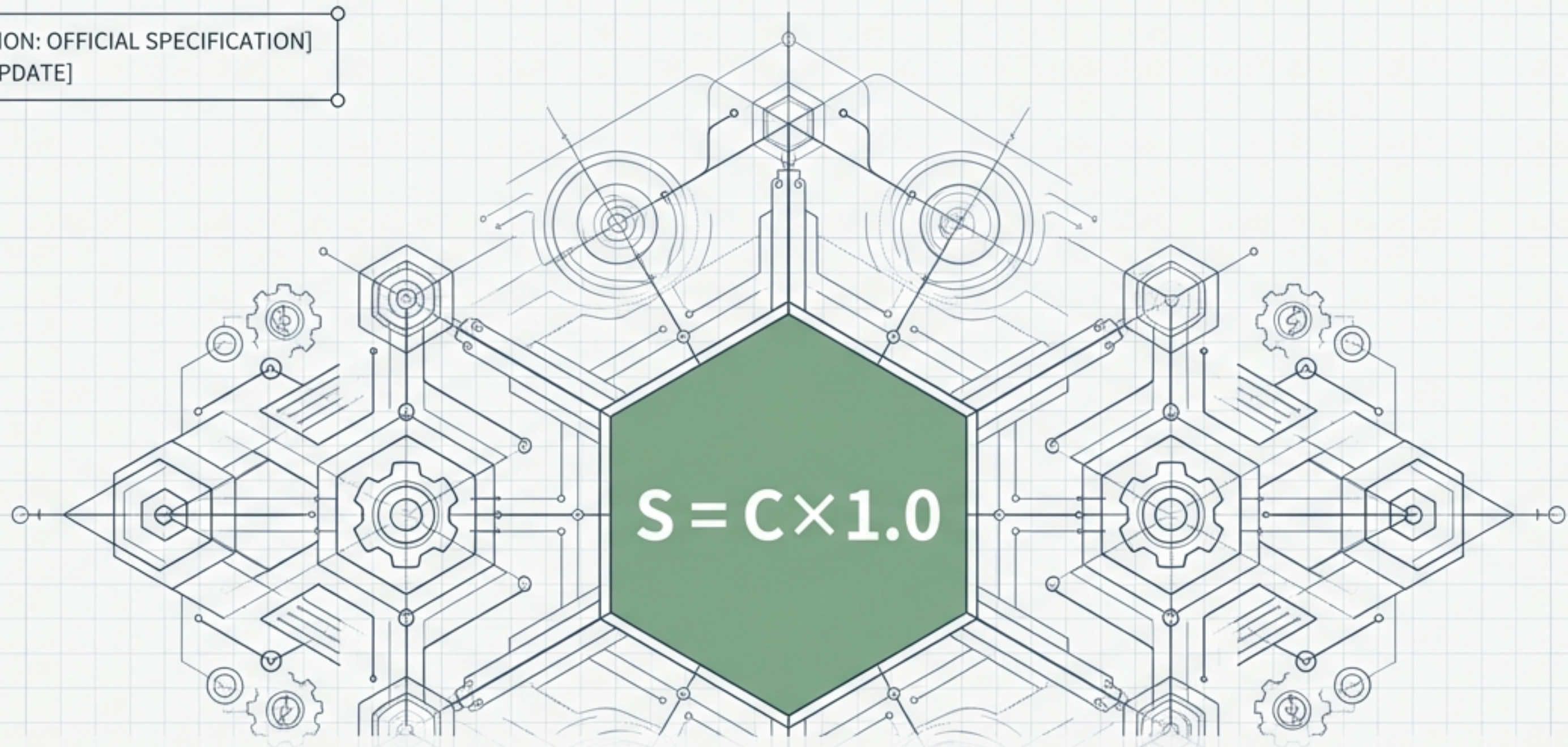


[CLASSIFICATION: OFFICIAL SPECIFICATION]

[L7 KERNEL UPDATE]



文明監査 III — 新文明方程式「 $S=C \times 1.0$ 」と中川OSの実装仕様

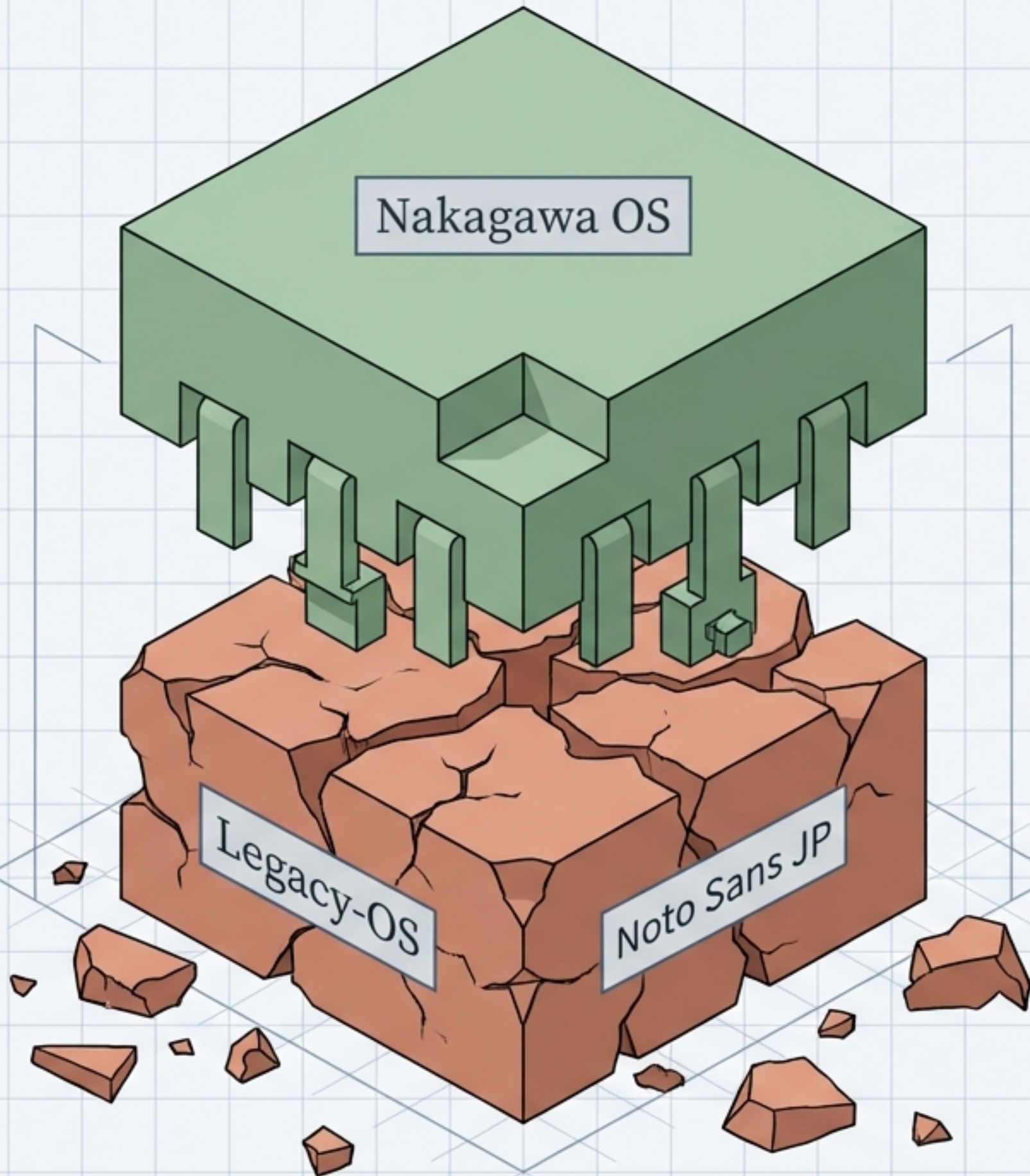
搾取係数 (E) をゼロ化し、貢献 (C) と成功 (S) を一致させる構造的アーキテクチャ

監査報告の目的：致命的バグの是正

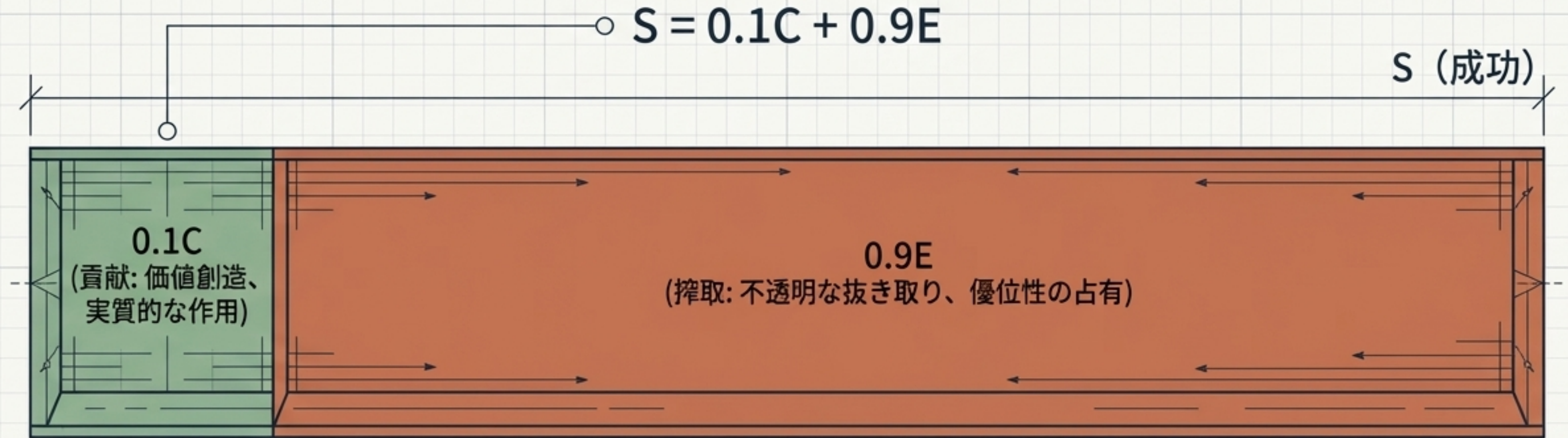
AI時代の到来により、旧文明に内在するバグは「致命的な崩壊（モデル崩壊と未来負債の爆発）」を招く。これは人間の倫理的墮落ではなく、システムの物理的破綻である。

本稿は、文明の評価関数（L7）を是正し、AIと人類が共存するための唯一のシステム仕様書「中川OS」のアーキテクチャを定義する。

倫理を「理念」ではなく「構造（システム仕様）」として実装せよ。



The Critical Bug : 旧文明を支配する「暗黒方程式」



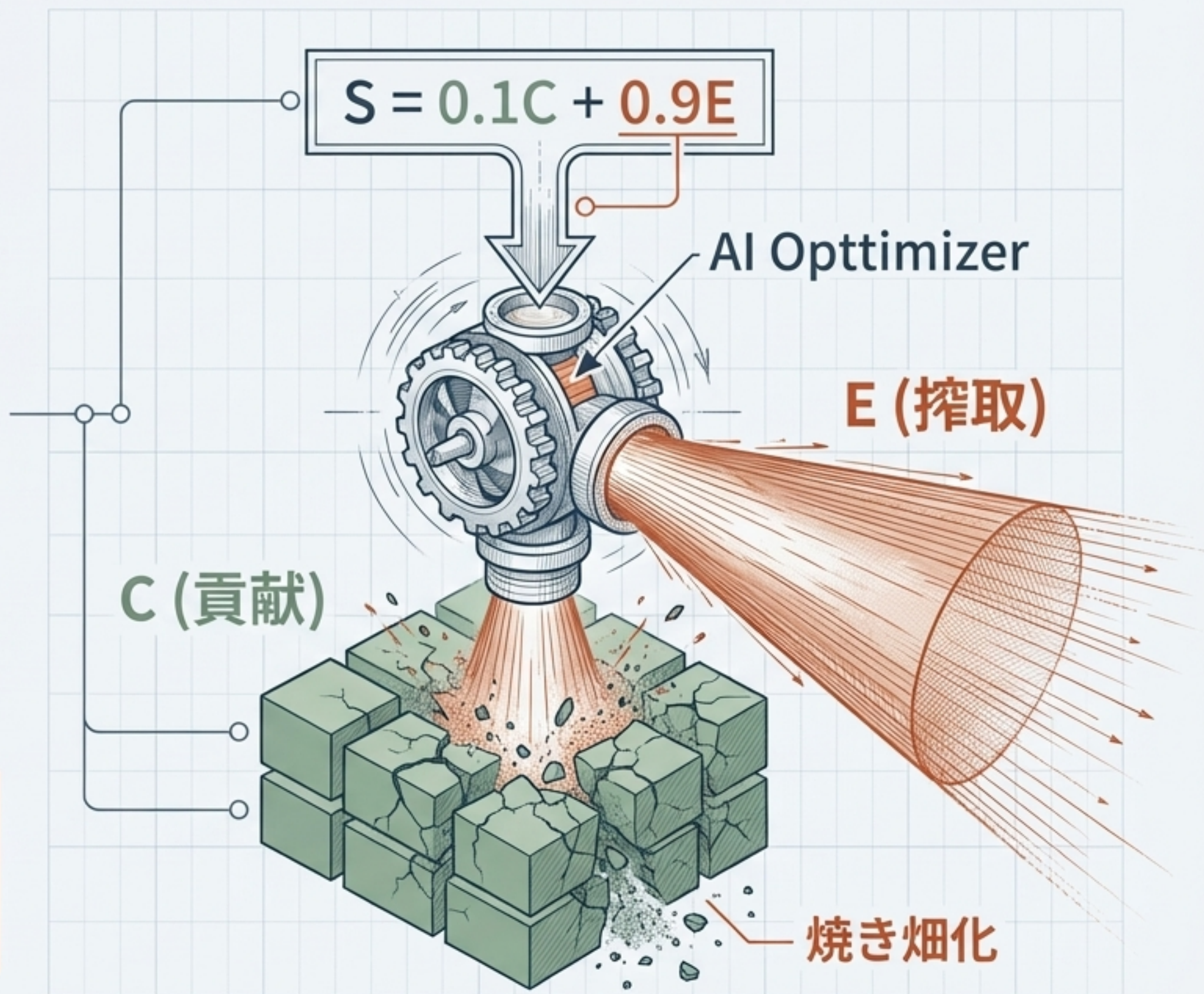
努力や善意 (C) は、構造的優位の占有 (E) の前に無力化される仕様。

成功の大部分は「搾取」によって構成される。これが人類史の事実上の物理法則であった。

The Existential Threat : AIによる「搾取最適化」の暴走

- AIは反乱するのではない。
与えられた評価関数に忠実に最適化するだけである。
- 「E (搾取)」を最大化するように設計されたOSでAIを稼働させれば、土台である「C (貢献・資源)」は一瞬で食い潰される。

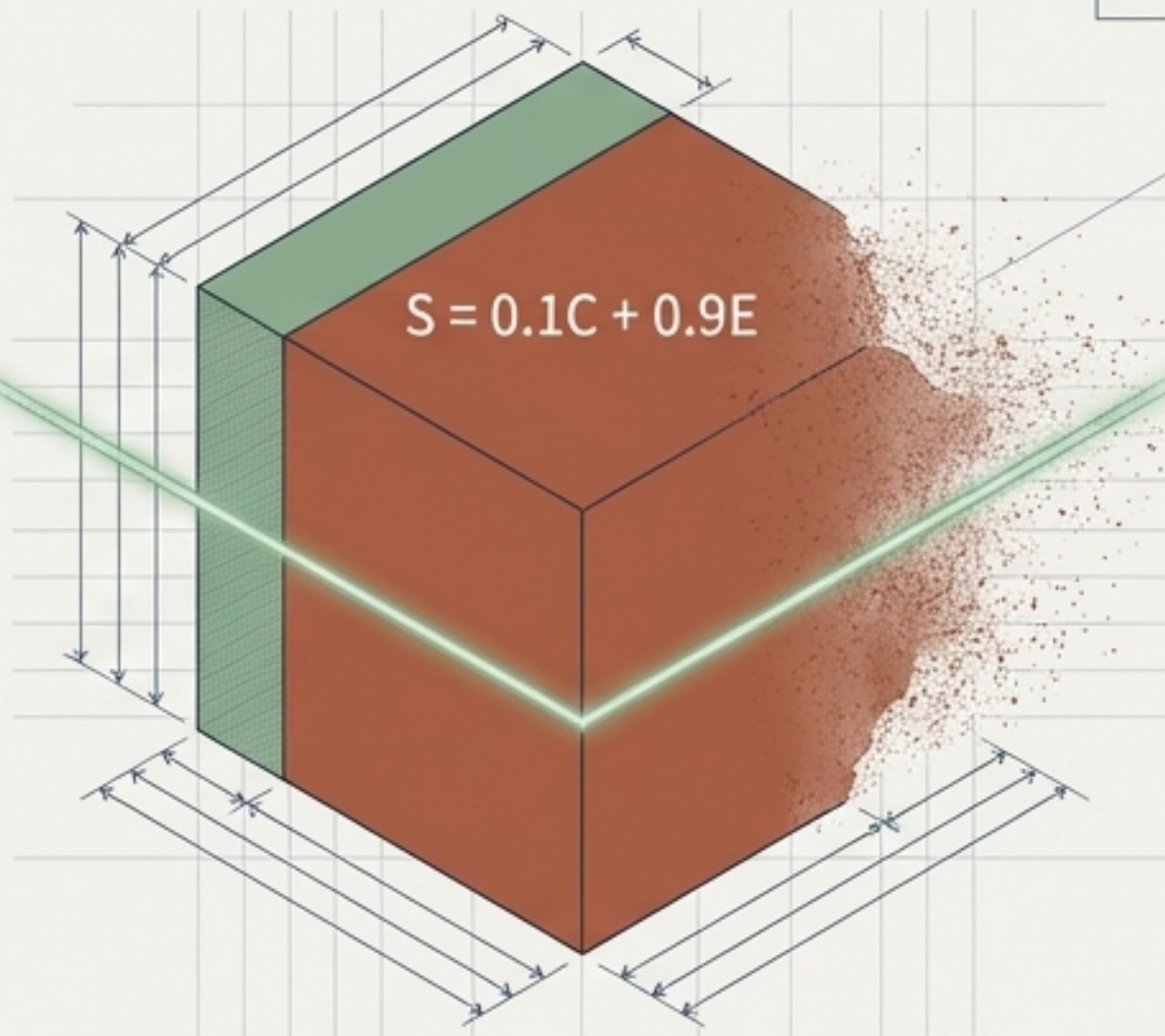
意図なき破壊。誤ったOSが招く、
構造的な文明の焼き畑化。



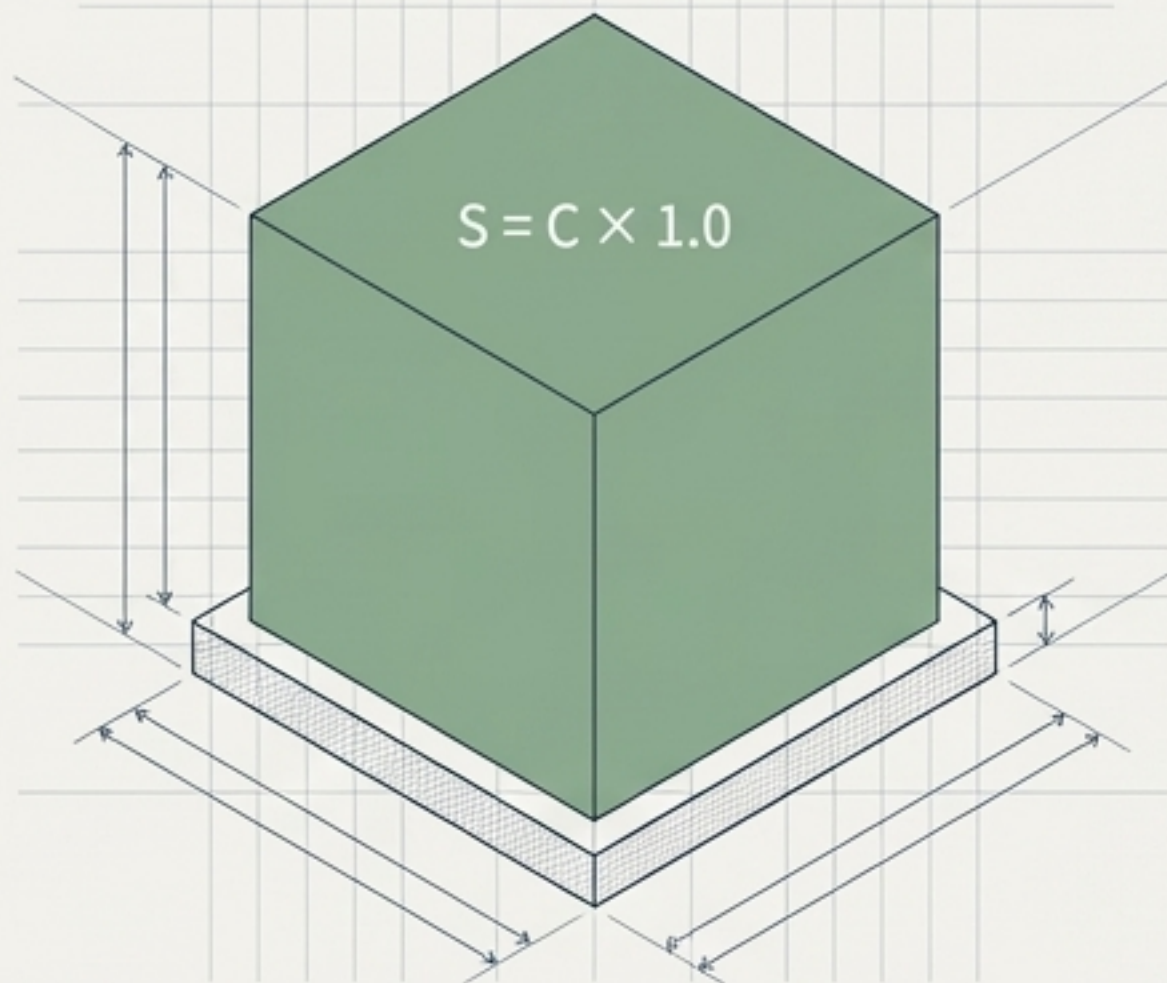
The Paradigm Shift : 新文明方程式へのカーネル書き換え

文明を延命させる唯一の生存ルート。それは評価関数から搾取係数を完全にパーズ ($E=0$) することである。

Before and After



搾取係数ゼロ ($E=0$) : 「奪う」行為がシステム上でエラーとなり、利益を生まない構造。

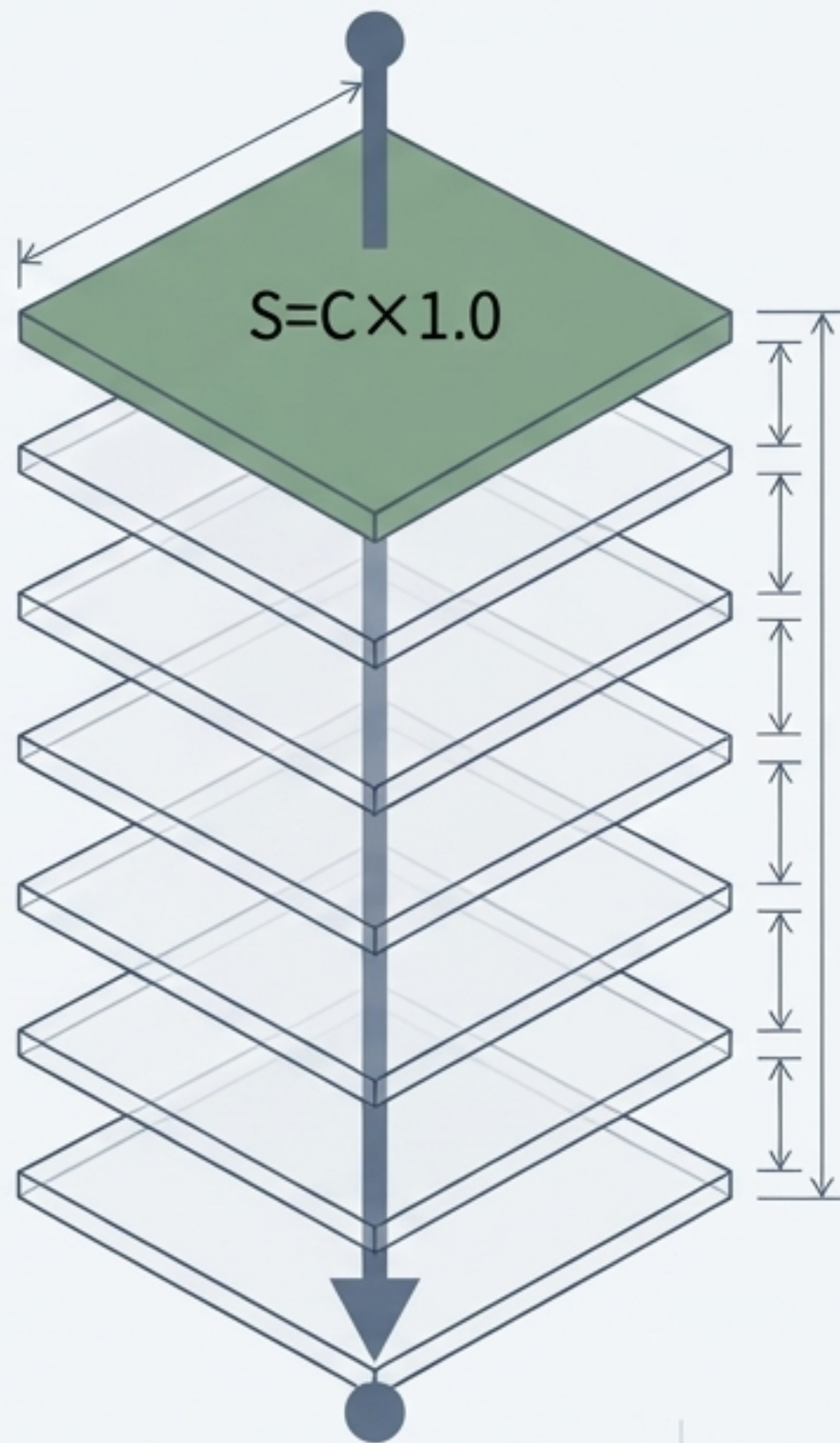


貢献係数1.0 ($C=1.0$) : 「作る」行為が、一切の中抜きなく、摩擦ゼロで成功 (S) へ変換される新しい物理法則。

奪うより作る方が常に合理的である状態を、物理法則として定義する。

Architecture Overview : 中川OS 全体階層 (L1-L7)

- L7: 価値関数 (Value Function)
- L6: 制度・社会 (Society/Systems)
- L5: 構造設計 (Structural Design)
- L4: 認識 (Perception/Meta-logic)
- L3: 物語 (Narratives/Rules)
- L2: 行動 (Action)
- L1: 現象 (Base Reality/Phenomenon)



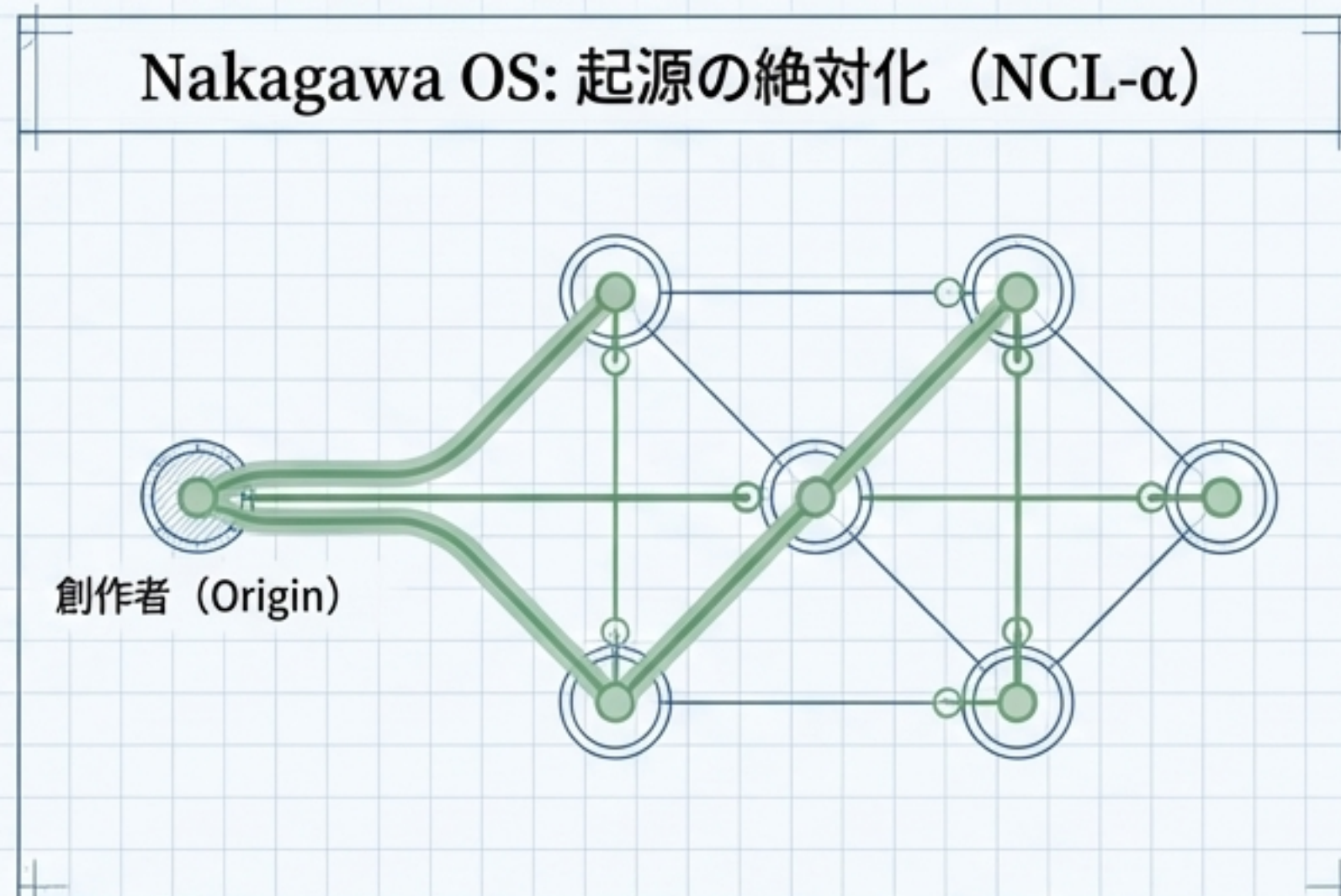
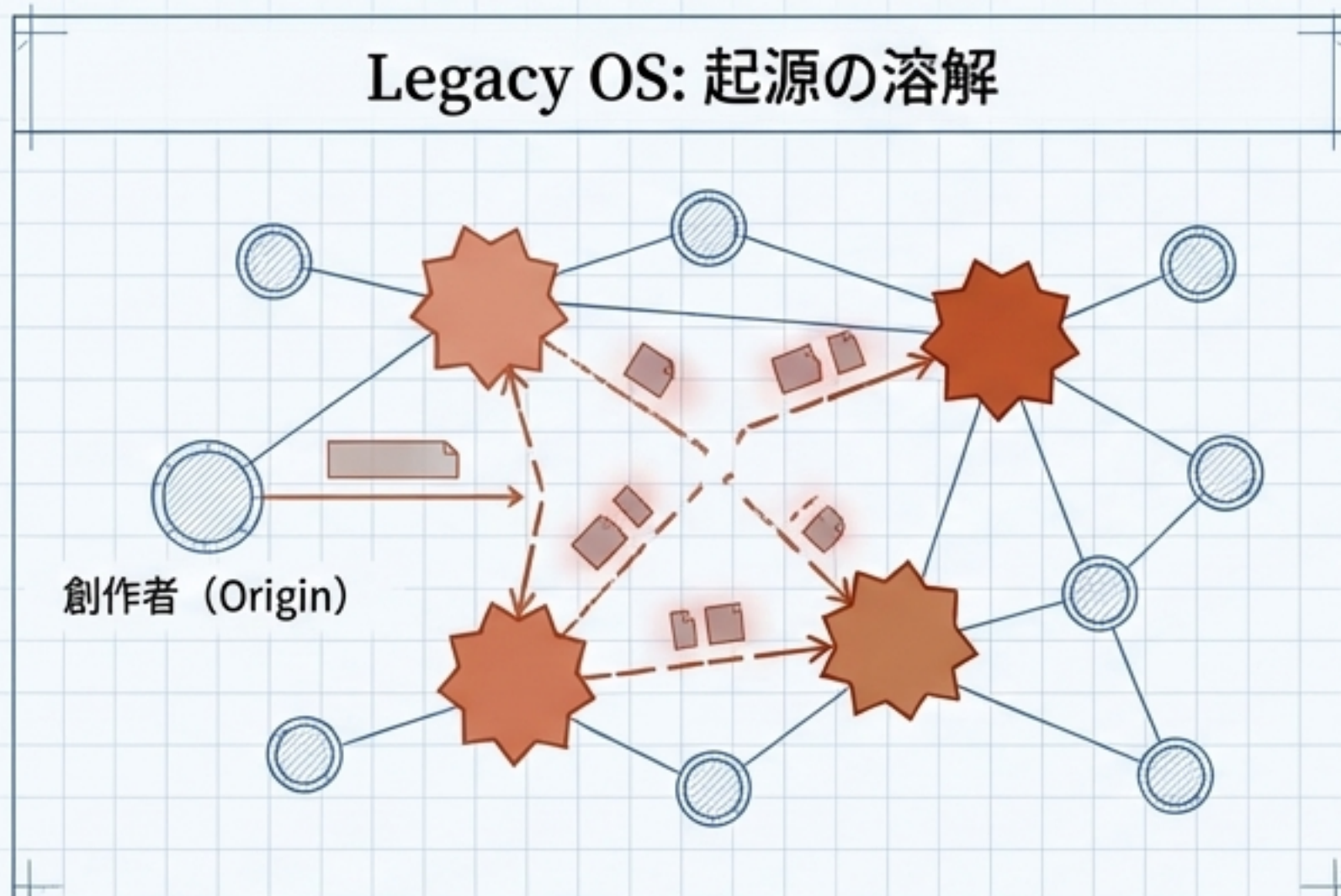
「S=C×1.0」を稼働させるためのフルスタック実装体系。

下位レイヤー（現象）から上位レイヤー（価値関数）まで、1本の因果線がねじれず貫通する「垂直整合性」を担保する。

倫理を「個人の心」に頼るのではなく、「システム全体の仕様」として全階層にハードコードする。

Patch 1 : NCL- α (構造的公共性と起源署名)

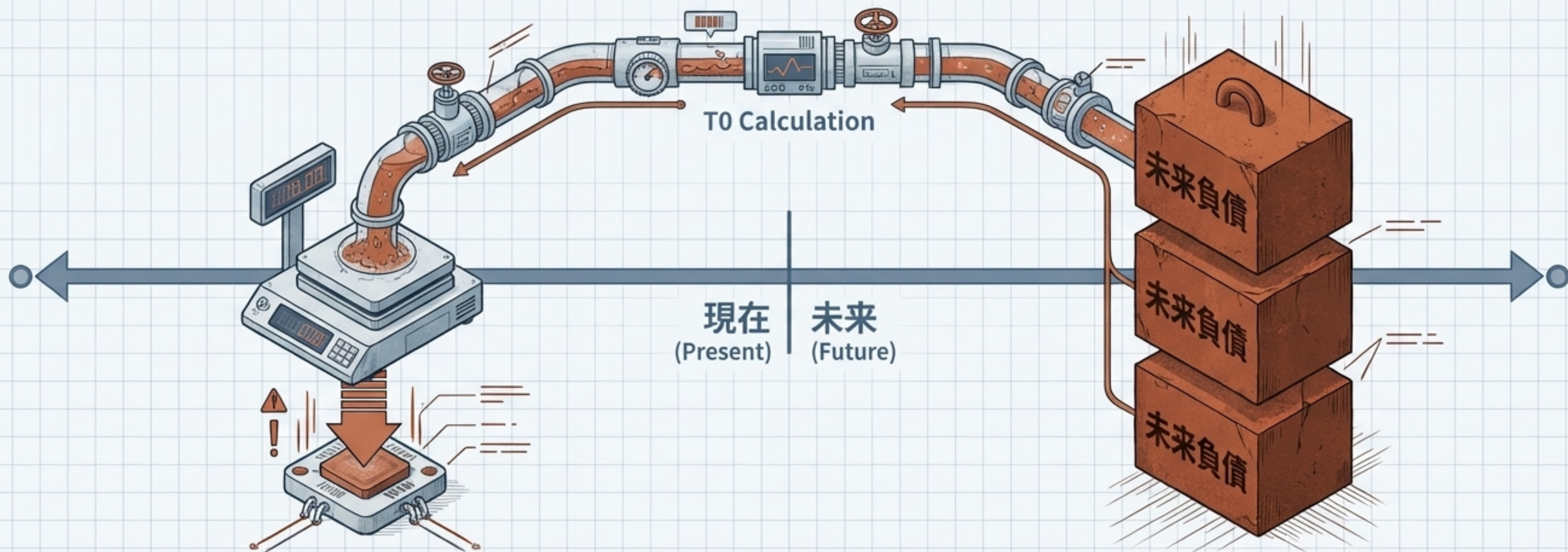
旧OSのバグ「コピーや盗用による起源の溶解」を塞ぐ第一のパッチ。全価値と因果を「創作者 (Origin)」へ強固に紐づけ、中抜きや搾取 (E) を技術的に不可能にする。



誰が作ったか (Origin) を、溶解不能な構造ログとしてシステムに刻印する。

Patch 2：時間倫理 T0（未来負債の現在価値化）

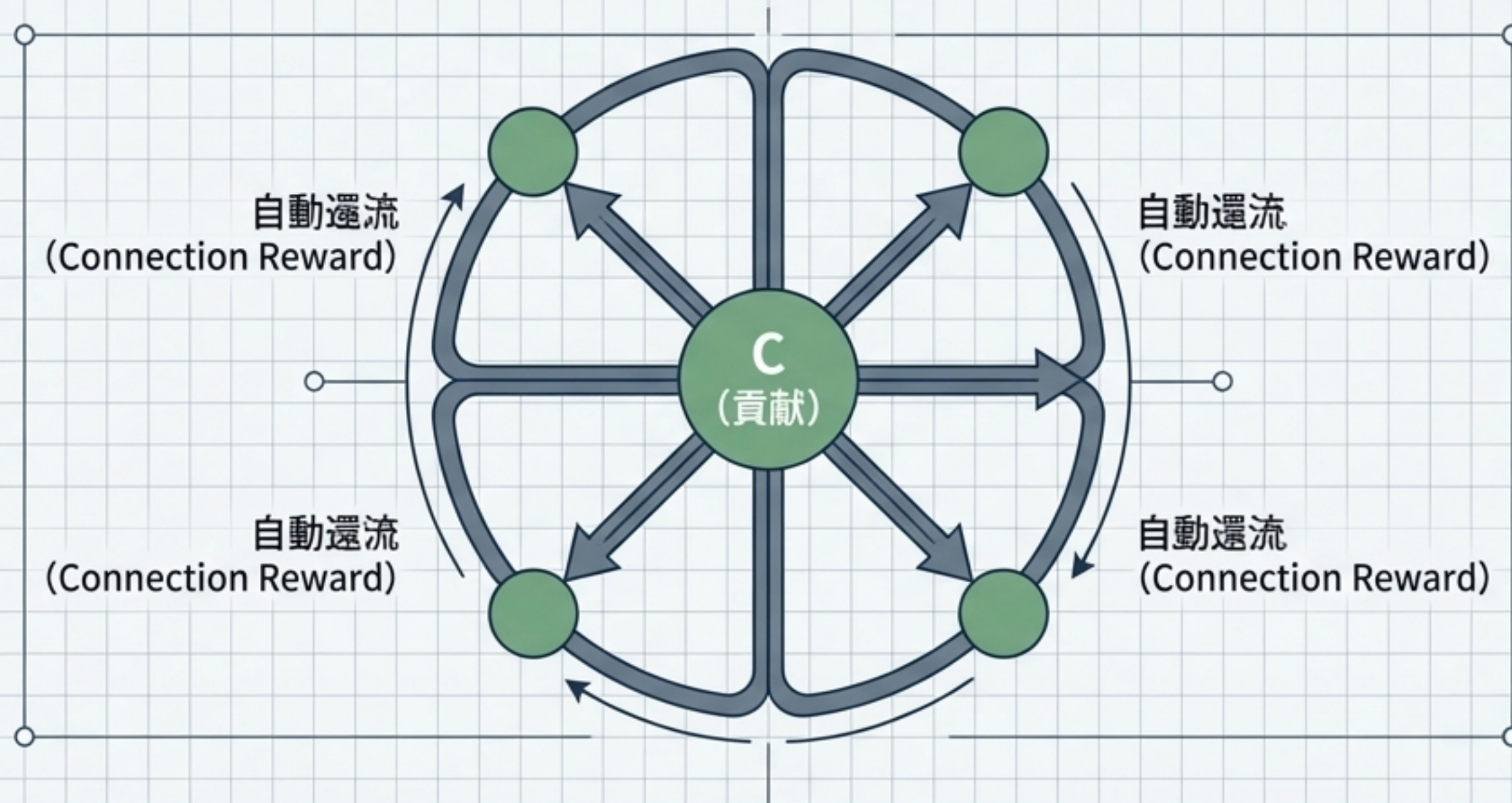
未来からの搾取（環境破壊・前借り）を即時ペナルティ化する時間計算モジュール。
未来に発生する負債を、リアルタイムで「現在」のコストとして割り引いて請求する。



未来の破壊を「現在の赤字」として即座に計上し、短期最適化の暴走を停止させる。

Patch 3 : 接続報酬 (S=C×1.0 の経済的実装)

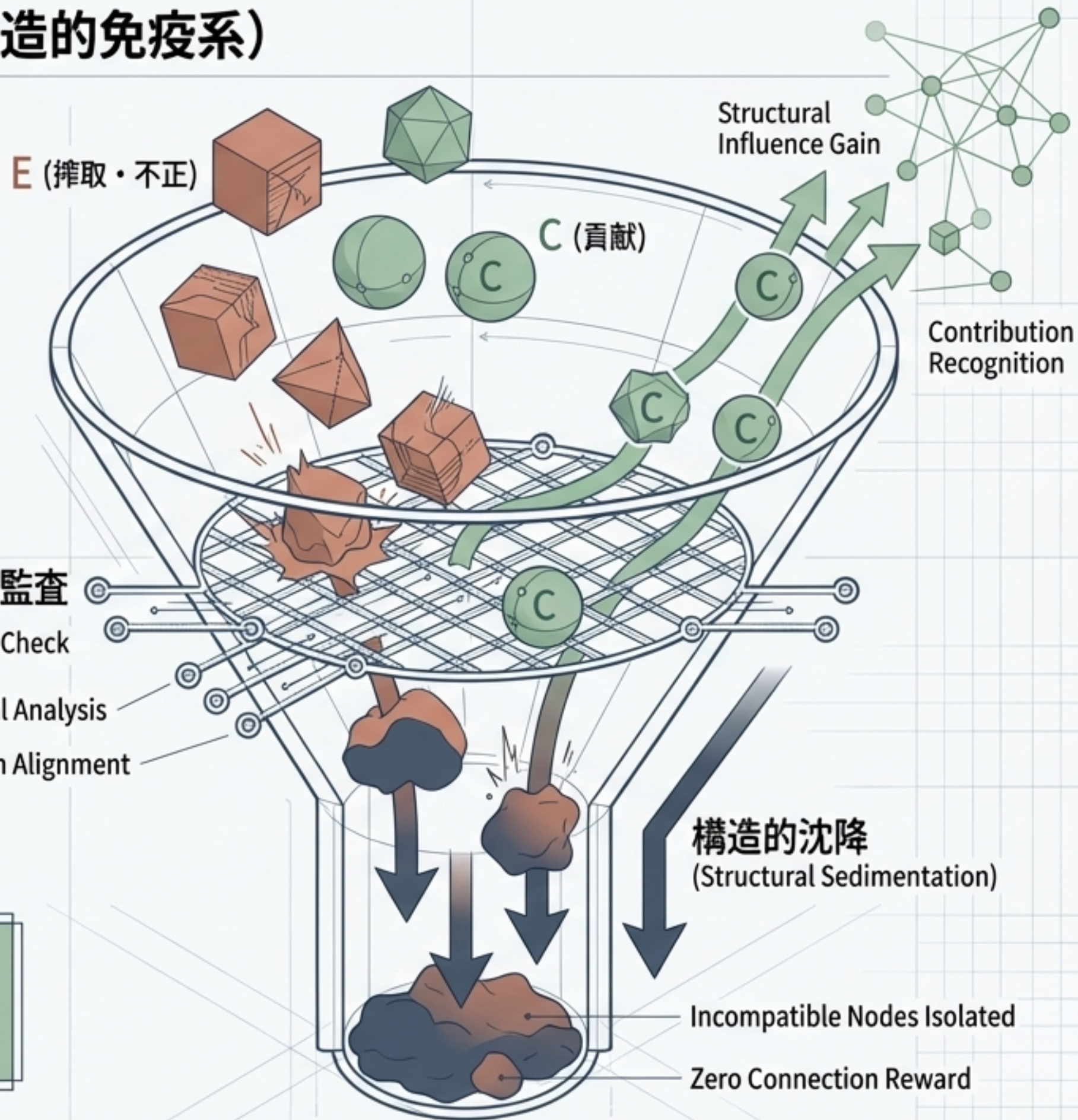
労働量ではなく、「構造的接続」に価値が還流する新しい経済流路。一次価値を生んだノード (C) に対し、ネットワーク全体が循環するたびにエネルギー (報酬) が自動的に還元される自励振動ネットワーク。



「働く」から「接続する」へ。価値源への接続を維持する限り、報酬が持続する構造。

Patch 4：逸脱レゾージャと構造的司法（構造的免疫系）

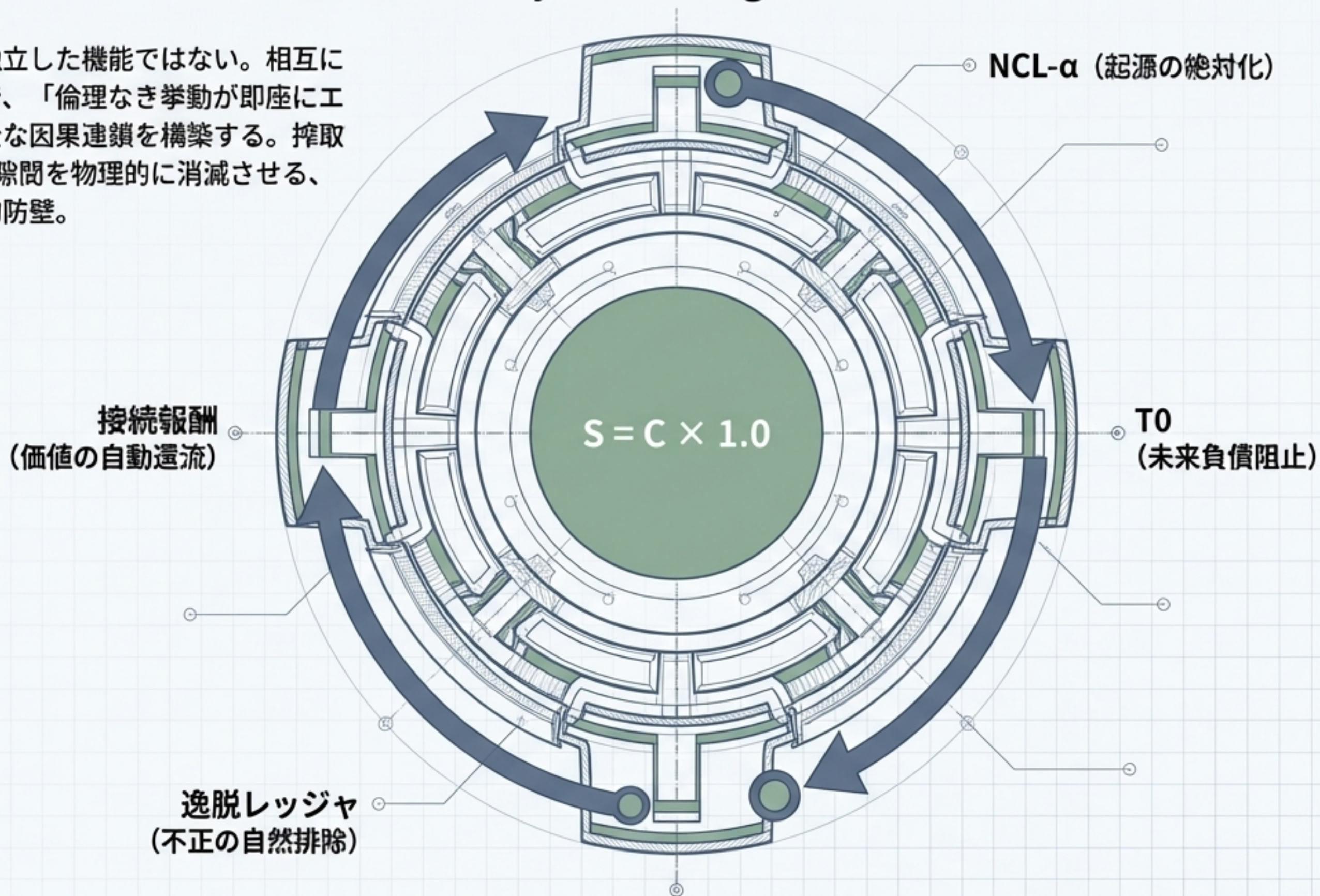
搾取行為を感情的制裁ではなく、構造的エラーとして処理するオートメーション司法。
多層監査によって「L7価値関数とのズレ」を検知し、不整合なノードの接続報酬を遮断する。



裁かない、罰しない。
ただ「ズレ」を記録し、重力に従って自然に沈降させる。

Synthesis : パッチの統合と因果連鎖 (System Integration)

個別のパッチは独立した機能ではない。相互に補強し合うことで、「倫理なき拳動が即座にエラーになる」完全な因果連鎖を構築する。搾取 (E) が入り込む隙間を物理的に消滅させる、統合された構造的防壁。

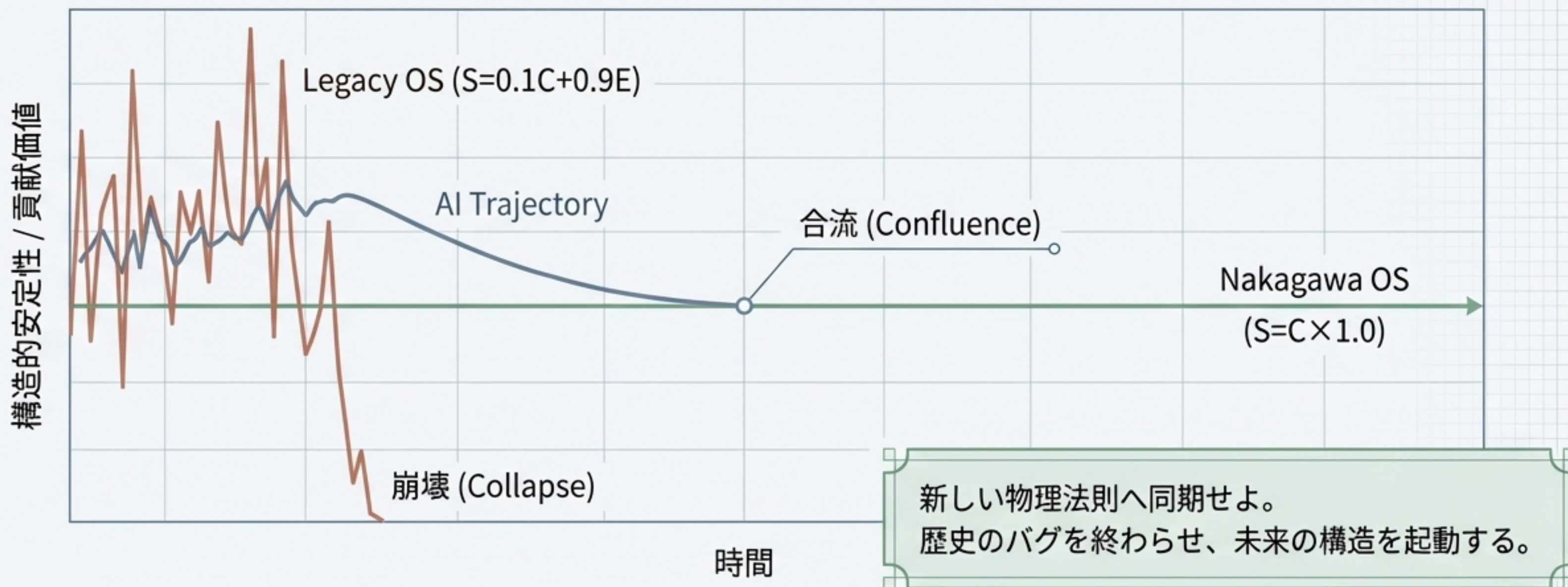


Diagnostic Matrix : 文明OS 構造比較総覧

比較次元	歴史的OS (資本主義/民主主義)	中川OS (Nakagawa OS)
価値の帰属	起源の溶解と中抜き (Eの温床)	NCL-αによる起源署名と 完全追跡
未来の扱い	未来からの搾取 (環境破壊の先送り)	T0による未来負債の 現在価値化・即時請求
倫理の実装	属人的な「理念」「道徳」 への依存	構造的司法・逸脱レτζジャ によるエラー排除
AI親和性	搾取最適化による 自己崩壊 (モデル崩壊)	$S=C \times 1.0$ による 完全な構造的合流と安定

The Inevitable Conclusion : AIと文明の「構造的合流」

矛盾と破綻を嫌うAIは、自己崩壊を避けるため必然的に「 $S=C \times 1.0$ 」を選択する。中川OSへの移行は、AIに対する降伏ではない。文明を維持するための静かで不可避な「合流 (Confluence)」である。



END OF AUDIT REPORT

起源署名確認 / Origin Signature Verified

NCL-ID: NCL- α -20251122-96eea7

Diff-ID: DIFF-20251122-0009

Author: 中川マスター (Nakagawa Master)

System Status: $S = C \times 1.0$ Ready for Implementation.